

指導の重点

(1) 新教育課程の編成・学習指導の充実

- 自然や人に恵まれているいずみ野の教育財を生かし、学校教育目標の具現化に努める。
- 地域連携部が中心となって、地域の方の学習支援を受けながら、基礎・基本の定着を図る。
- 授業研究・授業公開を行ったり、保護者や地域、関係者による授業評価を行ったりして、新教育課程を編成するとともに、学習指導の検証を通してその充実を図る。
 - ・ 実効性のある力を身に付ける（感性豊かな心、学力、体力など）。
 - ・ 遊びや体育の授業などを通して、日常的に体を動かすことを楽しむ子どもを育てる。
 - ・ 学校保健委員会、食教育（農業生産活動など）を通して、地域の方々の生き方や命の大切さを学び、豊かな心を育む。 ⇨ 食育実践推進校

(2) 児童・生徒指導、特別支援教育の推進

- 児童支援専任がコーディネートしながら、児童の安全・安心等に関する情報を全職員で共有し、問題解決を図ったり未然防止に努めたりして、規範意識を育てる。
 - ・ 家庭や地域と連携し、安全指導、防犯対策、児童指導、配慮を要する児童へのケア、いじめ・暴力・不登校傾向などへの対策、特別支援教育を推進する。
 - ・ 学校カウンセラーや関係諸機関の適切なアドバイスを受け、支援内容の充実を図る。
- 児童支援専任が中心となって、月別目標の指導徹底と振り返り、基本的な生活習慣の定着、豊かな心と良い人間関係が築けるように丁寧な見取りと励ましを組織的に連携して行う。
 - ・ 打ち合わせや職員会議、月1回の児童支援委員会で課題を検討し、対策を立て、共通理解を図りながら改善を進め、より良い学校生活を送る規範意識や社会性を養う。
 - ・ 愛情をもって子どもを認め、ほめることを通して、自己有用感が持てるように育てる。
- 横浜型小中一貫教育推進ブロックとして、小中間の連携を密にし、豊かなコミュニケーション能力を身に付けて中学校への移行をスムーズに行う。

(3) 教職員の研究・研修

- **泉区研究会**や学年研究で研究を進めると共に、授業力の向上を目指し、教材研究、展開、板書計画等を工夫し、評価と一体になった指導を行う。⇨ 阿久和小学校との**合同研究会**
- 研究部を中心に教師力（授業力、児童理解、高い専門性、人間性など）の向上を目指し、キャリアステージに応じて、研究・研修のあり方を工夫したり教育センターを活用したりする。
 - ・ 重点研究、区一斉授業研究、教師の授業交流等を通して、授業力向上に努める。
 - ・ 授業研究、ハマアップ等の活用を通して、研鑽を積む。
 - ・ 保護者や子どもに共感的に寄り添えるように、人権・福祉、特別支援教育や児童理解について研修する。
 - ・ 教育公務員として遵守すべきことについて、研修を行う。
 - ・ メンターチームによる研修を行う。
- 担任する学級ごとに学力・学習状況調査の結果などの客観的根拠を持って子どもの姿をとらえ、BEFORE→CHALLENGE→AFTERのプロセスで研究を推進する。

(4) 教育の改善・推進

- 中期学校経営方針のもと学校をひらき、教育の改善・推進を図る。
 - ・ 学校だよりや授業参観、ホームページ等を通して、学校の様子を積極的に公開する。
 - ・ 学校経営に学校運営協議会や地域コーディネーター、学校教育ボランティア等の意見や支援を取り入れ、より良い教育活動を行う。⇨MSⅠ
 - ・ 地域の方々を含めた学校評価を行い、改善計画を立て、教育の向上に努める。